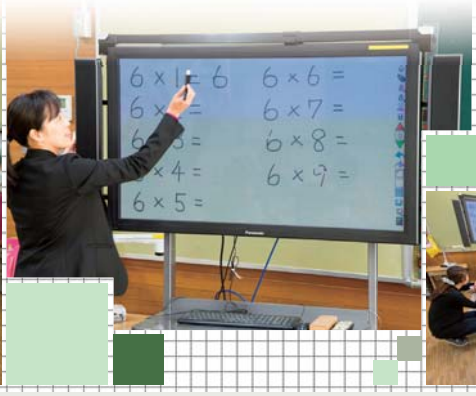
取材ご協力学校 いなべ市立三里小学校

導入事例
てれたっち

「わかりやすい授業の実現」と「事前準備の効率化」2つの面で大きな効果をもたらした「てれたっち」



三重県いなべ市は、授業のICT化をはじめ教育環境の充実に力を注がれている自治体です。いなべ市立三里小学校では、「てれたっち」の導入により「わかりやすい授業の実現」と「教員の授業準備の効率化」という目覚しい効果を上げられています。同校の森田登志子先生、谷崎愛弓生先生、またいなべ市教育委員会・学校教育課の水谷妙指導主事にお話を伺いました。
※先生のご紹介、学校での設置状況などは取材当時のものです。

※ディスプレイは別売りです。

導入商品
外付け型タッチ化ユニット
「てれたっち」
DA-TOUCH / WB

「てれたっち」を通じて、ICTは便利で楽しいものと自信に

ポイントを画面に書き込み

「てれたっち」を導入する前にも電子黒板が導入されていたそうですが、活用状況はいかがでしたか。

森田先生：ICTに対しては苦手意識があり、既存の電子黒板にはなかなか手が出ない状況でした。基本、授業はアナログで行っていました。

谷崎先生：従来の電子黒板は複数のクラスで譲り合いながら利用していました。短い授業の合間に電子黒板を移動させて自分の教室まで運ぶのは非常に大変でしたね。休み時間は授業の準備などに忙しく、移動、設置、設定などと行っている時間はそうありません。私も森田先生と同様にICTに詳しいわけではありませんので、設定に手間取ったらどうしようなどと思うと、結局ほとんど手が出ませんでした。

「てれたっち」の導入にあたっては、ぜひやってみたいと積極的にご参加されたとのこと、以前との違いはどこにあったのでしょうか。

森田先生：今回は複数クラスでのシェアではなく、教室に常時据え置きという形で導入できるということでした。心理的なハードルがだいぶ下がり、それならば児童たちのためにも挑戦したいと手を挙げました。

谷崎先生：私も森田先生と同じ理由です。最初は苦手意識があったものの、実際に使ってみたら思いのほか簡単で、「あ、できるんだ!」というのが率直な感想でした。毎日使う中で慣れてきて、以前より自信がつきました。「てれたっち」を通じて、ICTは決して難しいものではなく、便利で楽しいものと認識が改まりましたね。

「書きたい!」という声が次々に

画面上で大事なところをマーク。これだけで、わかりやすさが格段に違う

児童の皆さんの反応はいかがですか。

森田先生：低学年の児童は、タッチペンで画面に書き込みしたり、書いたものを隠す機能でパッと消してみせたりするだけで歓声が上がります。また、「画面に自分で書いてみたい人?」と呼びかければ、ほぼ全員が元気よく手を挙げます。

谷崎先生：高学年の児童はもう少し落ち着いていますね。皆タブレットなどを使い慣れていますので、自然に受け入れました。授業では、画面上の資料などに対して、タッチペンでポイントをマークするといったシンプルな使い方をしていますが、非常によく伝わります。

森田先生：「てれたっち」とカメラを組み合わせれば、教科書、副教材、ノートなどをすぐに大きなディスプレイに映すことができ、細部まで拡大したり、大事なところに書き込みしたりできます。特にほかの児童のノートを見ることは刺激になるようで、学習意欲は格段にアップします。

コピーや切り貼りといった資料の事前準備の時間を削減

先生方の負担も軽減されたとか。

谷崎先生：社会科はとにかく資料が重要ですから、以前はたくさんの教材を拡大コピーして貼り合わせるなどの準備をしていました。しかし、手間も時間もかかり負担になっていました。その点「てれたっち」は手軽で、そのままサッと画面上に資料を表示できます。準備時間は大きく削減できました。このやり方なら、児童の反応を見て、パソコンに取り込んであるすべての資料の中から、臨機応変に「見せる資料」を変えることもできます。

水谷指導主事：森田先生、谷崎先生とも「ICTは苦手」と仰いましたが、そんな中でも試行錯誤を重ねてみえます。こうした先生方の姿勢がよい効果につながるのでしょう。「てれたっち」は子どもたちの自主的な発言、積極的な発表を促す「表現力を高めるツール」として評価しています。先生方の授業をアシストし、子どもたちの学びにつながる効果的なICTの活用方法を今後も考えていきたいですね。

取材にご協力いただいた先生

いなべ市教育委員会
学校教育課
水谷 妙 指導主事

いなべ市三里小学校
森田 登志子 先生

いなべ市三里小学校
谷崎 愛弓 先生

CLIENT DATA

導入学校／いなべ市立三里小学校
所在地／三重県いなべ市
設立／1874年